

# 調查報告書 2014

## -沖繩調查旅行篇-

IXΘΥΣ PROJECT



# 目次

今回訪れた場所	5
芸術表現篇	
北海道アイドルユニット Jewel Kiss、沖縄初遠征	7
学術研究篇	
対馬丸記念館	1 1
小桜の塔	1 3
波上宮	1 6
「あとから来る君たちへ」	2 2
波の上ビーチ	2 4
福州園	2 5
(モノレール、バス経由)	
嘉数高台公園（普天間飛行場）	3 0

参考資料：沖縄知事選:保守分裂招いた辺野古移設対応（毎日新聞 2014年09月21日）40



# 今回訪れた場所



今回は滞在期間が限られていたため、那覇市内を中心にまわりました。周辺地域の調査は次回以降の継続課題といたします。

ただし、今回、普天間基地の移設問題は現在進行形の課題であり、「ぜひとも見ておきたい！」と考えたため、モノレールとバスを乗り継いで宜野湾市の嘉数高台公園まで向かいました。



## 藝術表現篇



2014年9月6日、イクトゥス・プロジェクトの倉井が楽曲提供させていただいている北海道のアイドルユニット Jewel Kiss の沖縄初遠征ライブ！ということで、研究調査もかねて同行させていただきました。

那覇空港到着後、「いっしょに写真を」と言われたものの、アイドルと写真に収まると“公開処刑状態”になってしまうのはわかっていたので遠慮しました。



帰りに一人で撮ったお WWW



調査報告は、毎度おなじみの「おにく」と「ほくろ」がやっていくよ！



ライブ出演直前、北の宝石箱。当日は雨でしたが、お客様はたくさん来てくださいました。



RYUKYU IDOL さんをはじめとする 5 マンライブは無事終了いたしました。

# 学術研究



翌日は、調査研究として沖縄の歴史を学ぶことにしました。

対馬丸記念館 一建設理念一

対馬丸記念館　TOPへ

対馬丸記念館 利用案内 「対馬丸」とは 対馬丸の記憶 フォトギャラリー 対馬丸協力会 掲示板

建設理念

昭和19(1944)年8月22日、沖縄からの疎開者を乗せた「対馬丸」は、鹿児島県・悪石島付近で米海軍潜水艦ボーフィン号の魚雷攻撃を受け沈められました。このとき、乗船者約1800名のうち学童775名を含む1418名（氏名判明者数）が一瞬のうちに帰らぬ人となりました。

この年7月から翌20年3月の最後の疎開までに、沖縄から出航した延べ187隻の疎開船（約8万人）のうち、これほどの民間人が犠牲になったのは対馬丸を除いて他にありません。わたしたちは、対馬丸撃沈事件を過去の歴史的事実だけにとどめておくべきではないと考えます。

財団法人対馬丸記念会では事件から半世紀以上たった今こそ、この歴史の記憶を 共有し平和といのちの大切さを子どもたちの目線で伝えていくことが必要と考え、 対馬丸記念館の建設に取り組んできました。対馬丸記念館は平和学習の場として だけではなく、子どもたちを取り巻く様々な環境において地域コミュニティの重要性やいのちの大切さを知る場でありたい。さらには多角的視点に立った児童福祉や平和教育のあり方を学び、その拠点となる記念館を建設・運営することを目標として います。

無念にも尊い命を失った学童たちに代わり、21世紀の子どもたちが夢と希望と平和にあふれた世界に“漕ぎ出せる”ようにすることが、対馬丸記念館の大きな願いです。

<http://www.tsushima-maru.or.jp/jp/kinenkan/kinenkan1.html>

1/2 ページ

館内は撮影禁止でしたので、公式 HP から概要を転載させていただきます。

## 対馬丸犠牲者の慰靈碑



Memorial to Victims of the Tsushima-maru Kozakura no To  
対馬丸犠牲者の慰靈碑 小桜花之塔  
쓰시마마루 회생자의 위령비 고자쿠라의 탑 (小桜の塔)

## 小桜の塔 ご案内

小桜の塔は、対馬丸の犠牲者を記した慰靈碑です。1954年、愛知県のすずしろ子供会（会長 河合 桂・当時）が、沖縄に子どものための慰靈碑を建てようと一円募金を募り、愛知県知事をはじめ同県の大いな協力によって沖縄に贈られました。

塔は船首を那覇港に向かたレリーフが正面にデザインされ、両脇には犠牲者名が記された刻名碑が建っています。

Kozakura monument is a memorial cenotaph for the Tsushima-maru victims. In 1954, Kei Kawai, a chairperson at the time of Suzushiro Children's Organization in Aichi prefecture, started 1 yen donation for memorial cenotaph dedicated for the children who perished their lives during the war in Okinawa. With the support from the governor and the people of Aichi prefecture, the donation was made and the first memorial cenotaph was founded for children in Okinawa.

The monument relief the head of the ship facing Naha port with names of fallen victims engraved on the side.





小桜の塔。対馬丸記念館の奥、旭ヶ丘公園の一画にあります。





波上宮。立派な神社ですが、由来を調べると、沖縄と近代日本の複雑な関係が  
みえてきます。

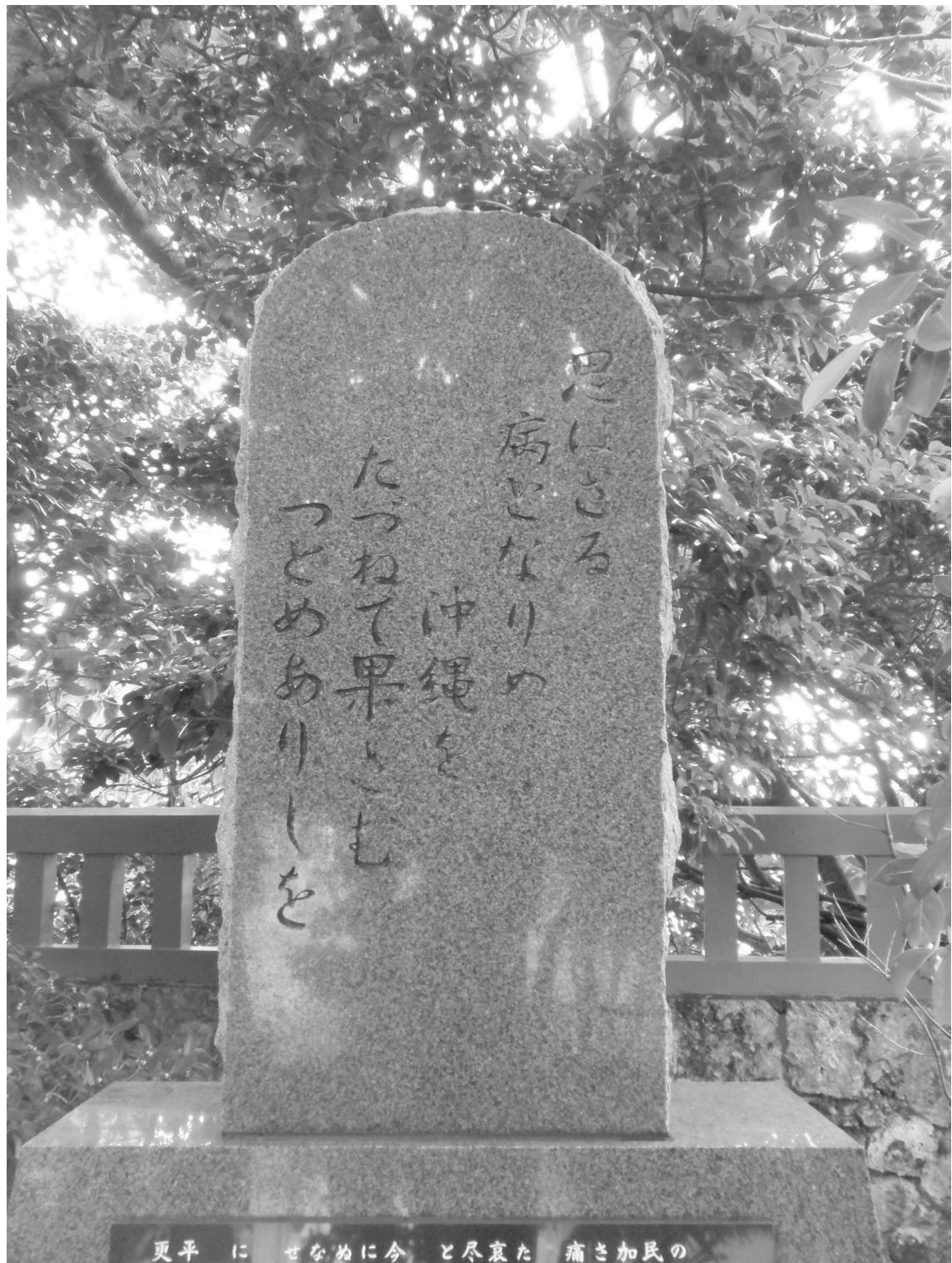


土着のニライカナイ信仰に由来を持ちつつ、明治以降は官弊小社として国家神道の社格に列せられます。



明治天皇の像。琉球処分以後、沖縄は正式に日本の領土とされました。





晩年の昭和天皇が、戦後、沖縄行幸を果たせなかつたことを気にして読んだ御製です。



昭和天皇のおことば

さきの大戦で悲劇となった沖縄が、島々の姿をも変える甚大な被害を蒙り、一般住民を含む数多くの苦い犠牲者を出したことに加え、戦後も長らく多くの苦労を余儀なくされ、またことを思うとき深い悲しみと痛みを覚えます。

ここに改めて、戦陣に散り、戦禍にたおれた数多くの人々やその遺族に対し、宣傳の意を表すとともに、戦後の復興に尽力した人々の苦労を心からねぎらいたいと思います。

終戦以来すでに四十年の歳月を経え、今日この地で親しく沖縄の現状と県民の姿に接することを念願していましたが、思われぬ病のため今田沖縄訪問を断念しなければならなくなつたことは、誠に残念でなりません。

健床が回復したら、できるだけ早い機会に訪問したいといたします。

皆には、どうか今後とも相協力して、平和で幸せな社会をつくり上げるため、更に協力してくれることを切に希望します。

昭和六十二年十月二十四日



波上宮から海辺に向かう途中、石碑を発見（文面は右ページに）。

## 「あとから来る君たちへ」

いま

私たちの平穏な営みは  
多くの先人の犠牲の上にある  
先人から受け継いだこの国を  
あとから来る君たちに託し  
ここに伝えたい

忘れないで欲しい  
多くの尊いいのちのことを  
祖国を守るために

地上戦となつたこの沖縄の地で  
道半ばの戦いに散つていった人たちのことを  
忘れないで欲しい  
先人たちが何より守りたかったのは  
いまの私たちの誇りと笑顔だということを  
だから泣かないで　ここでは笑顔を見せよう  
そして私たちは後から来る君たちの誇りと笑顔を守つていこう

伝えて欲しい  
君たちにこの国が託されたとき  
次の世代に  
この国がいつまでも  
笑顔の絶えない国であるために

ここ沖縄　摩文仁の丘に集いし　我々青年の覺悟を宣す

### —平和宣言—

時代の変化を見極める英知  
この国の誇りを守りぬく勇気  
そして青年として諦めない情熱

我々は理想とする真の日本建国に向けて  
永遠に平和を創造し続けることを誓う

二〇〇九年十月十七日  
社団法人日本青年会議所  
会頭　安里　繁信



波の上ビーチ。九月上旬とはいえ、比較的賑やかでした。

対馬丸のことや沖縄の歴史、ニライカナイ信仰などを調べていくと、この青い海に対する感慨がいっそう深いものになります。……人びとが幸せに生きられる平和を守らなくてはなりません。



福州園。県庁前の駅へ向かう途中にあり、気になって入ってみました。



中国と沖縄の歴史的な友好関係を象徴する公園です。









その後、普天間基地のみえる嘉数高台公園へ。県庁前からモノレールに乗車。古島駅の前からバスに乗って30分弱で到着（「広栄団地入り口」で下車）です。

※旭橋駅前のバスターミナルから向かう方法もあります。





## 銃痕の壁





地球儀をイメージした展望台。ここから普天間基地が一望できます。



展望台の解説。



普天間基地。オスプレイが見えます。





京都の塔。1945（昭和 20）年の沖縄戦では、京都出身者が数多く命を落としたそうです。



付近に遺されているトーチカ（防御陣地）。弾痕が無数にあります。激戦を物語るかのようです。

今日遺されている戦争史蹟から、わたしたちは何を受け取り、どのような未来を目指してゆけばよいでしょうか。

【参考資料】：沖縄知事選:保守分裂招いた辺野古移設対応（毎日新聞 2014年09月21日）

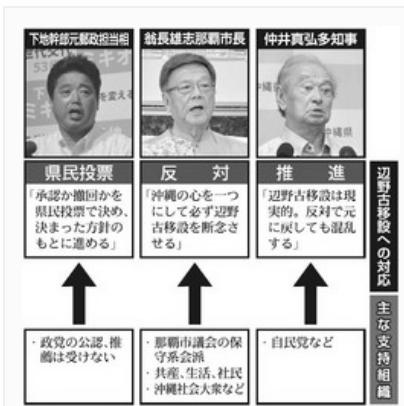
沖縄知事選:保守分裂招いた辺野古移設対応－毎日新聞

2014/09/22 8:29



## 沖縄知事選:保守分裂招いた辺野古移設対応

毎日新聞 2014年09月21日 15時06分 (最終更新 09月21日 15時54分)



沖縄県知事選は、米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古への県内移設を巡って保守が分裂し、一部が革新と共に闘う初めての知事選になる。11月16日の投開票まで2カ月を切り、選挙戦は事実上始まっている。各陣営にとっては、最大の争点となる辺野古移設へのスタンスを巡り一枚岩になれるかが、当面の課題だ。

立候補を表明しているのは辺野古移設推進を訴え、3選を目指す自民推薦の仲井眞弘多（ひろかず）知事（75）▽辺野古移設反対を訴え、自民党を除名された那霸市議や社民、共産など県政野党が推す翁長雄志（おなが・たけし）那霸市長（63）▽移設を県民投票に問うとする下地幹郎・元郵政担当相（53）--の3氏。

「ウチナーンチュ（沖縄人）を裏切ったあの県庁にお住まいの方、心して聞いてほしい。この不幸な状態を2カ月で終止符を打とう」。16日、那霸市内であった翁長氏の事務所開きで、吳屋守将（ごや・もりまさ）選対本部長は辺野古の埋め立てを承認した仲井眞氏をそう批判した。

陣営は辺野古移設反対で一致するものの、保守系の支持者の中には国との対決姿勢を不安視する人もいる。正式な出馬表明となった13日の記者会見では「当選したら埋め立て承認の撤回、取り消しをするのか」との質問が相次いだ。これに対し、翁長氏は「保守と革新が腹八分で気持ちを固めて闘おうとしている」と述べて、共闘する保守と革新の支持者の考え方が完全には一致していないことを認め「私一人の一存で申し上げることはできない」と明言を避けた。

一方、仲井眞氏は「普天間飛行場の5年以内の運用停止を実現させたい。この流れをストップさせなければならない」と「普天間飛行場の危険性除去」を強調する。だが、埋め立て承認への反発は強く、7日に投票があった沖縄の「ミニ統一地方選」では、保守系の候補者から「今回は知事に応援に来てほしくない」という声もあったという。陣営関係者も「支持者の中にはまだ抵抗感がある人もいる」と語った。【佐藤敬一】

### ◇どうなる、埋め立て承認 「現状では撤回難しい」「県民総意で撤回可能」

辺野古沿岸部では今も防衛省によるボーリング調査が進んでいる。知事が承認した政府の埋め立て申請を、後で撤回したり取り消したりすることは可能なのだろうか。

公有水面埋め立て法には撤回や取り消しについての規定はない。三好規正（のりまさ）・山梨学院大法科大学院教授（行政法）は「法律に書いていても、承認手続きに瑕疵（かし=本来あるべき要件が欠けていること）があつ

たり、深刻な環境破壊など公益に反する状況が明白になったりすれば撤回できる」と指摘する。ただ辺野古については「瑕疵があるかどうか。現状では撤回は難しいだろう」とみる。

三好教授によると、仮に移設反対派の知事が誕生し撤回した場合、国が県を相手に違法確認訴訟を起こす可能性があるという。

嘉手納爆音訴訟などを手掛けてきた池宮城紀夫弁護士（沖縄弁護士会）は「重大な瑕疵を理由に行政行為の効力を失わせるのが『取り消し』で、瑕疵はないが効力を持続させることが適当ではない理由が発生した場合に失効させるのが『撤回』だ」と説明する。その上で「撤回の理由を『県民の総意』とできるし、知事の裁量の範囲内として法的に認められる可能性がある」と主張する。

一方、菅義偉（すが・よしひで）官房長官は辺野古移設を「過去の問題」とし、知事選に関係なく進める考えを示している。こうした政府の方針について元琉球大教授の江上能義（たかよし）・早稲田大学院教授（政治学）は「反対派の知事が誕生し、名護市長も反対する中で移設を強行すれば、憲法が定める地方自治の本旨を踏みにじる行為だ」と指摘している。【福永方人】

---

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.

イクトウス・プロジェクト 調査研究報告書 2014  
-沖縄旅行篇-  
(非売品)

---

2014年9月23日 第一刷発行

編集・発行 倉井香矛哉  
<http://www.ichtus.net>

---

印刷・製本 イクトウス・プロジェクト

---

© 2014 I X Θ Υ Σ PROJECT

Published by Kamuya Kurai.

Printed in Japan 2014